

【表紙】
【提出書類】 四半期報告書
【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】 近畿財務局長
【提出日】 平成20年11月13日
【四半期会計期間】 第59期第2四半期(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)
【会社名】 大丸エナウィン株式会社
【英訳名】 DAIMARU ENAWIN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 竹川 卯三郎
【本店の所在の場所】 大阪府大阪市住之江区緑木1-4-39
【電話番号】 06-6685-5101
【事務連絡者氏名】 財務部長 明石 賢治
【最寄りの連絡場所】 大阪市住之江区緑木1-4-39
【電話番号】 06-6685-5106
【事務連絡者氏名】 財務部長 明石 賢治
【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第59期 第2四半期連結 累計期間	第59期 第2四半期連結 会計期間	第58期
会計期間	自 平成20年 4月1日 至 平成20年 9月30日	自 平成20年 7月1日 至 平成20年 9月30日	自 平成19年 4月1日 至 平成20年 3月31日
売上高 (千円)	8,927,043	4,192,958	
経常利益 又は経常損失() (千円)	245,500	20,185	
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失() (千円)	92,701	27,476	
純資産額 (千円)		7,035,829	
総資産額 (千円)		10,286,933	
1株当たり純資産額 (円)		875.95	
1株当たり四半期 (当期)純利益 又は四半期純損失() (円)	11.54	3.42	
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 又は四半期純損失() (円)			
自己資本比率 (%)		68.4	
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	246,159		
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	258,031		
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	44,184		
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)		1,452,270	
従業員数 〔ほか、平均臨時 雇用者数〕 (名)		300 〔33〕	

- (注) 1 当社は第59期より連結財務諸表を作成しておりますので、第58期については記載しておりません。
2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益又は四半期純損失()については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(名)	300〔33〕
---------	---------

(注) 従業員数は就業人員数(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時従業員数は〔 〕内に当第2四半期連結会計期間の平均人員を外数で記載しております。なお、臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。

(2) 提出会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(名)	291〔33〕
---------	---------

(注) 従業員数は就業人員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時従業員数は〔 〕内に当第2四半期会計期間の平均人員を外数で記載しております。なお、臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 受注状況

当社は製品即納体制をとっておりますので、受注実績は販売実績とほぼ同額であり、受注残高に重要性はありません。

(2) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(千円)
リビング事業部	3,649,230
医療・産業ガス事業部	389,758
アクア事業部	153,970
合計	4,192,958

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

特記すべき事項はありません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間のわが国経済は、原油価格や原材料価格の高騰による企業収益の悪化に加え、米国大手証券会社の破綻など世界規模での金融不安の拡大が追い討ちをかけ、景気の減速傾向が明らかになりました。

このような状況下におきまして、今期より丸信ガス株式会社を連結子会社とした当社グループの第2四半期連結会計期間における売上高は、リビング事業部3,649百万円、医療・産業ガス事業部389百万円、アクア事業部153百万円、合計4,192百万円を計上しました。

前期個別四半期財務諸表の第2四半期売上高に比べますと365百万円の増収となりました。事業部別の内訳は、リビング事業部においてLPガス価格高騰の影響が大きく、子会社丸信ガスの売上高も寄与して338百万円増加し、医療・産業ガス事業部は、産業ガスが減少のため6百万円減少し、アクア事業部はユーザー件数の拡大に連動して33百万円増加しました。

売上総利益についてはLPガス仕入価格の変動が業績に多大な影響を及ぼすため、7月度より従来3ヶ月に1度改訂していた原料費調整制度を毎月改訂する制度に変更し、卸売販売での仕入価格連動性の徹底に努めました。

この結果、前期個別四半期財務諸表の第2四半期売上総利益に比べ67百万円の増益となり、販売費及び一般管理費がのれん償却額等の減少があり54百万円の増加にとどまりましたので、営業損失は前期個別四半期財務諸表の第2四半期営業損失に比べ12百万円赤字額が減少し28百万円になりました。

営業外収益10百万円、営業外費用1百万円を加減算した経常損失は前期個別四半期財務諸表の第2四半期累計経常損失に比べ12百万円赤字額が減少し20百万円になりました。法人税、住民税及び事業税等控除後の四半期純損失は27百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は1,452百万円となり、第1四半期連結会計期間における資金1,586百万円から134百万円減少いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは63百万円の資金が増加しました。これは税金等調整前四半期純損失が22百万円となりましたが、非資金取引となる減価償却費115百万円、のれん償却額74百万円やたな卸資産の減少21百万円を計上したことに対し、仕入債務の減少が129百万円あったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは105百万円の資金が減少しました。これは有形固定資産の取得が101百万円あったことと無形固定資産の取得5百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは92百万円の資金が減少しました。これは短期借入金の返済が90百万円あったことと期末配当金の支出2百万円によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社を取り巻く事業環境は非常に競争が厳しく、主力商品のプロパンガスはオール電化や都市ガスの攻勢が考えられます。また、ブタンガスを含めたLPガスは主に海外からの輸入に依存しております。したがって、当社グループの約7万軒のガスユーザーが他エネルギーへの転換により減少していく要因や、国際情勢の変化により仕入価格が上昇する要因があります。

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえて、業務用販売での原料費調整制度導入や卸売販売での仕入価格連動性の徹底を行ない利幅確保を図ります。また、M&Aを含めたのれん買収により、利益率の高い直売先を増加させてまいります。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、運転資金および設備投資資金につきましては、内部資金により資金調達をすることとしております。また、納税および賞与資金につきましては、決算期を越えない範囲で完済する金融機関からの短期借入金により資金調達をすることとしており、実質無借金経営を継続しております。

当社グループは、この健全な財務状態と営業活動によりキャッシュ・フローを生み出す能力により、当社グループの成長を維持するために当面必要な運転資金および設備投資資金を調達することが可能と考えております。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、平成20年4月1日付組織変更により、支店・営業所に対するLPガスの直売と卸売の指示系統を一本化し意思伝達を円滑にするため、ぽっぽガス事業本部とエネルギー事業本部を統合しリビング事業本部としました。

「LPガス」、「アクア」、「医療・産業ガス」を当社のコア事業として明確化するため、エネルギー事業本部の下部組織であった医療・産業ガス部を事業本部に昇格させました。

LPガス供給における保安推進として現行の保安室に加えて、リビング事業本部のぽっぽガス部に保安推進課を設置しました。LPガス直売先の保安にしっかり目を配り、お客様の視点にたった保安を心がけます。卸売先につきましても、保安に関する情報伝達や指導・助言に注力し、安全・快適なLPガスのイメージ向上に貢献したいと考えます。

競合燃料への対抗としては、環境に適合したエネルギー効率の高い商品の販売促進、リフォーム事業の拡大、リースやレンタルによる販売の活用などを積極的に展開してまいります。そして、フォローサービスの訪問を徹底し、お客様との接点を大切にすきめ細かな営業を展開してまいります。また、そのための人材教育、営業力強化に努めてまいります。

医療・産業ガスの営業力強化と拡販体制としましては、大阪支店の充填工場統合・移転(平成17年11月)に伴い、大阪地区では医療・産業ガスの充填工場がなく委託充填により業務を続けてまいりましたが、当事業は医療業および生産業の中での存在意義が大きく当社のコア事業として確立すべきと判断し、販売地区の拡大や営業力強化を図ってガス拡販に努め、当地区で充填工場を建設できる販売量を確保したいと考えます。このために、営業マンに対し主として医療ガス販売における専門的教育やLPガス販売と同様に個人コンテストを実施しモチベーションおよびスキルアップに努めます。また、販売先である病院を交えた保安体制の強化、産業ガスユーザーに対する保安点検の強化を行ない、当社の存在意義をアピールしてまいります。

アクア事業の強化、工場の稼働率アップによる営業利益の確保として、平成20年4月、大阪地区の販売拡大のため本社組織から収支管理を独立させたアクア大阪事業所を設置しました。これはアクア東京事業所に続くアクア専業の事業所です。アクア事業においては潜在顧客数の多い大都市圏での展開を積極的に進めたいと考えます。また、自社工場の操業により供給体制およびウォーターサーバーのメンテナンス体制が整ったことから、さらなる拡大を目指して新規ユーザー獲得に力を入れるとともに既存ユーザーに対してもミニコミ誌の配布や定期的なキャンペーン実施など訪問サービスに努めてまいります。そうしたことにより、工場の稼働率を高め原価低減につなげてアクア事業における営業利益を確保してまいりたいと存じます。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、第1四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更並びに重要な設備計画の完了はありません。

また、当第2四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,600,000
計	22,600,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成20年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成20年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,046,500	8,046,500	東京証券取引所 大阪証券取引所 各市場第二部	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社 における標準となる株式
計	8,046,500	8,046,500		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成20年9月30日		8,046		870,500		1,185,972

(5) 【大株主の状況】

平成20年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
大丸エナウィン共栄会	大阪市住之江区緑木1-4-39	590	7.33
三井丸紅液化ガス株式会社	東京都千代田区内幸町1-3-1	498	6.20
伊藤吉朝	奈良市富雄元町	396	4.93
大丸エナウィン社員持株会	大阪市住之江区緑木1-4-39	308	3.84
株式会社パロマ	名古屋市瑞穂区桃園町6-23	292	3.63
富士火災海上保険株式会社	大阪市中央区南船場1-18-11	290	3.61
株式会社近畿大阪銀行	大阪市中央区城見1-4-27	277	3.45
青木尚史	大阪市住之江区	241	3.00
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	227	2.83
堀川産業株式会社	埼玉県草加市住吉1-13-10	225	2.80
計		3,348	41.62

(注) 大丸エナウィン共栄会は当社と取引関係にある企業を会員とした取引先持株会であります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成20年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 14,300		
完全議決権株式(その他)	8,027,100	80,271	
単元未満株式	5,100		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	8,046,500		
総株主の議決権		80,271	

- (注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式1株が含まれております。
2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。

【自己株式等】

平成20年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 大丸エナウイン株式会社	大阪市住之江区緑木 1 - 4 - 39	14,300		14,300	0.18
計		14,300		14,300	0.18

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	648	642	645	635	633	631
最低(円)	581	582	580	589	600	588

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。
- (2) 当連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)は、連結財務諸表の作成初年度であるため、以下に掲げる四半期連結貸借対照表については、前連結会計年度との対比は行っておりません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,452,270	-
受取手形及び売掛金	2,639,216	-
商品	489,586	-
その他	353,962	-
貸倒引当金	8,631	-
流動資産合計	4,926,404	-
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	1,124,920	-
土地	1,548,766	-
その他(純額)	998,597	-
有形固定資産合計	3,672,285	-
無形固定資産		
のれん	1,092,831	-
その他	107,554	-
無形固定資産合計	1,200,386	-
投資その他の資産		
投資有価証券	240,146	-
その他	251,191	-
貸倒引当金	3,480	-
投資その他の資産合計	487,857	-
固定資産合計	5,360,529	-
資産合計	10,286,933	-
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,268,145	-
未払法人税等	149,704	-
役員賞与引当金	10,000	-
その他	382,477	-
流動負債合計	2,810,327	-
固定負債		
役員退職慰労引当金	209,243	-
その他	231,533	-
固定負債合計	440,777	-
負債合計	3,251,104	-

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	870,500	-
資本剰余金	1,185,972	-
利益剰余金	4,958,880	-
自己株式	9,441	-
株主資本合計	7,005,911	-
評価・換算差額等	29,918	-
その他有価証券評価差額金	29,918	-
純資産合計	7,035,829	-
負債純資産合計	10,286,933	-

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	8,927,043
売上原価	6,207,829
売上総利益	2,719,213
販売費及び一般管理費	2,494,590
営業利益	224,623
営業外収益	
受取利息	1,123
受取配当金	4,012
受取賃貸料	8,439
その他	10,101
営業外収益合計	23,676
営業外費用	
支払利息	626
売上割引	920
不動産賃貸費用	887
その他	363
営業外費用合計	2,799
経常利益	245,500
特別利益	
固定資産売却益	749
特別利益合計	749
特別損失	
固定資産除売却損	4,607
特別損失合計	4,607
税金等調整前四半期純利益	241,643
法人税、住民税及び事業税	140,310
法人税等調整額	8,632
法人税等合計	148,942
四半期純利益	92,701

【第2四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
売上高	4,192,958
売上原価	2,971,603
売上総利益	1,221,355
販売費及び一般管理費	1,249,921
営業損失()	28,566
営業外収益	
受取利息	655
受取配当金	288
受取賃貸料	4,078
その他	5,110
営業外収益合計	10,132
営業外費用	
支払利息	238
売上割引	283
不動産賃貸費用	887
その他	341
営業外費用合計	1,751
経常損失()	20,185
特別利益	
固定資産売却益	223
特別利益合計	223
特別損失	
固定資産除売却損	2,688
特別損失合計	2,688
税金等調整前四半期純損失()	22,650
法人税、住民税及び事業税	50,516
法人税等調整額	45,690
法人税等合計	4,826
四半期純損失()	27,476

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
(自平成20年4月1日
至平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	241,643
減価償却費	230,422
のれん償却額	149,921
役員賞与引当金の増減額(は減少)	8,355
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	9,617
長期未払金の増減額(は減少)	366
受取利息及び受取配当金	5,135
支払利息	626
有形固定資産除売却損益(は益)	3,857
売上債権の増減額(は増加)	823,214
たな卸資産の増減額(は増加)	7,038
仕入債務の増減額(は減少)	692,819
その他	297,902
小計	461,761
利息及び配当金の受取額	5,138
利息の支払額	626
法人税等の支払額	220,114
営業活動によるキャッシュ・フロー	246,159
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	233,216
有形固定資産の売却による収入	1,808
無形固定資産の取得による支出	18,968
投資有価証券の取得による支出	9,671
貸付金の回収による収入	2,017
投資活動によるキャッシュ・フロー	258,031
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	150,000
短期借入金の返済による支出	150,000
配当金の支払額	44,166
自己株式の純増減額(は増加)	18
財務活動によるキャッシュ・フロー	44,184
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	56,056
現金及び現金同等物の期首残高	1,508,327
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,452,270

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
<p>1 連結の範囲に関する事項の変更</p> <p>(1) 連結子会社の数 1社 連結子会社の名称 丸信ガス(株) 丸信ガス(株)は、全株式の取得により第1四半期連結会計期間より連結子会社となりました。</p> <p>(2) 非連結子会社の数 2社 非連結子会社の名称 ピワコ・シティ・ガス(株)、(有)紀ノ川シティガス (連結の範囲から除いた理由) 非連結子会社は、小規模であり、純資産、売上高、四半期純利益及び利益剰余金は、いずれも四半期連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>
<p>2 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更 連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。</p>
<p>3 会計処理の原則及び手続の変更 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用 「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成18年7月5日企業会計基準第9号)を第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、主として移動平均法による原価法から主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下による薄価切下げの方法)に変更しております。なお、従来の方法によった場合と比べ、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。</p>

【簡便な会計処理】

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
1 有形固定資産の減価償却累計額は5,181,868千円 であります。	

(四半期連結損益計算書関係)

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額 は、次のとおりであります。	
運賃	297,686千円
のれん償却額	149,921千円
給料手当	499,885千円
賞与	159,599千円
役員賞与引当金繰入額	10,000千円
役員退職慰労引当金繰入額	9,617千円
賃借料	152,610千円
減価償却費	211,383千円
備品消耗品費	325,454千円

当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	
1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額 は、次のとおりであります。	
運賃	147,853千円
のれん償却額	74,989千円
給料手当	249,886千円
賞与	80,150千円
役員賞与引当金繰入額	5,000千円
役員退職慰労引当金繰入額	5,584千円
賃借料	76,588千円
減価償却費	105,648千円
備品消耗品費	175,944千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結 貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	
現金及び預金	1,452,270千円
現金及び現金同等物	1,452,270千円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	8,046,500

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第2四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	14,301

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式	44,177	5.5	平成20年3月31日	平成20年6月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年10月30日 取締役会	普通株式	44,177	5.5	平成20年9月30日	平成20年12月10日	利益剰余金

5 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

所有権移転外ファイナンス・リース取引について通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、当四半期連結会計期間におけるリース取引残高に著しい変動が認められないため、記載していません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、当四半期連結会計期間に著しい変動はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

	リビング事業 (千円)	医療・産業ガ ス事業(千円)	アクア事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	3,649,230	389,758	153,970	4,192,958		4,192,958
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	3,649,230	389,758	153,970	4,192,958		4,192,958
営業利益又は営業損失()	19,882	18,249	26,933	28,566		28,566

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な商品

- (1) リビング事業 プロパンガス、ブタンガス、住設機器
(2) 医療・産業ガス事業 ... 医療用ガス、産業用ガス、溶接材料
(3) アクア事業 ミネラルウォーター

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

	リビング事業 (千円)	医療・産業ガ ス事業(千円)	アクア事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	7,858,156	794,317	274,568	8,927,043		8,927,043
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	7,858,156	794,317	274,568	8,927,043		8,927,043
営業利益又は営業損失()	260,316	47,212	82,905	224,623		224,623

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な商品

- (1) リビング事業 プロパンガス、ブタンガス、住設機器
(2) 医療・産業ガス事業 ... 医療用ガス、産業用ガス、溶接材料
(3) アクア事業 ミネラルウォーター

【所在地別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)

在外子会社及び在外支店が存在しないため、記載は省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

在外子会社及び在外支店が存在しないため、記載は省略しております。

【海外売上高】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)
すべて国内売上高のため、記載は省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)
すべて国内売上高のため、記載は省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
875円95銭	円

2 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
又は潜在株式調整後1株当たり四半期純損失
第2四半期連結累計期間

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
1株当たり四半期純利益	11円54銭
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

項目	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益(千円)	92,701
普通株式に係る四半期純利益(千円)	92,701
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,032

第2 四半期連結会計期間

当第2 四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)	
1株当たり四半期純損失()	3円42銭
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純損失については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失の算定上の基礎

項目	当第2 四半期連結会計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日)
四半期連結損益計算書上の四半期純損失() (千円)	27,476
普通株式に係る四半期純損失()(千円)	27,476
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,032

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

当社は下記のとおり、配当について取締役会の決議がありました。

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年10月30日 取締役会	普通株式	44,177	5.5	平成20年9月30日	平成20年12月10日	利益剰余金

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月10日
大丸エナウイン株式会社
取締役会 御中

監査法人 トーマツ

指定社員
業務執行社員 公認会計士 西 田 幸 男 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 伊 東 昌 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大丸エナウイン株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成20年7月1日から平成20年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大丸エナウイン株式会社及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 . 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 . 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。